

## 駿河台地区「2004年度教学改革に対応する教学システムの構築について」

著者	吉田 隆治
雑誌名	明治大学情報科学センター年報
巻	14
ページ	10-10
発行年	2002-11-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/13014">http://hdl.handle.net/10291/13014</a>

## 〔論 壇〕

## 2004 年度教学改革に対応する教学システムの構築について

事務システム課長 吉田 隆治

情報システム事務部では、2004 年度教学改革に対応するため、教学システムの再構築に着手することとなった。

再構築の目的は、大別すると次のとおりである。

- ① 新たな教育施策（情報コミュニケーション学部、ロースクール、グローバルガバナンスの開設）及び「質の高い教育」を目指す教学諸改革（半期履修制、GPA 制度導入、昼夜開講制、授業設計のフレックス化、カリキュラムの見直し等）への対応
- ② システムの改善—各システム間のデータベースの一元化、イントラネットシステム（MICS）、教育研究支援システムとの相互連携強化—とくに Oh-o!meiji システムとの連携—を図る。

再構築に当たっては、とくに次の点を留意したい。

- A 利用者の利便性の向上—【例】Web 上での学生各種事務申請、Web 履修登録・採点・成績管理（利用・運用の精査後に導入検討）、各種事務処理の Web ベース化—
- B EUC（エンドユーザーコンピューティング）の推進—欲しいデータを欲しいときに—より柔軟で機動的な事務処理を目指して—
- C セキュリティの確保

また、将来拡張性及び長期利用を考慮し、システムの根幹にはパッケージを利用し、一部カスタマイズで対応する開発手法を採用することとした。同時にシステム構築では本学初の 6 社入札を行い、ソフト、ハード両面において従来に比べ、導入・運用コストの低減を図ることとした。

すでに事務システムは、MICS 及び Oh-o!meiji システムとの連携など、教育活動と密接に関るシステムとなっており、今後、教員の研究業績 DB（データベース）や TLO 等、研究活動との連携も含め、更にこの傾向は強化されよう。

なお、教学システム再構築に引き続く法人システムの再構築では、大学の意思決定支援のための教学・経営情報の提供という角度からの検討も進めてゆきたいと考えており、関係部署のご支援ご協力を切にお願いしたい。